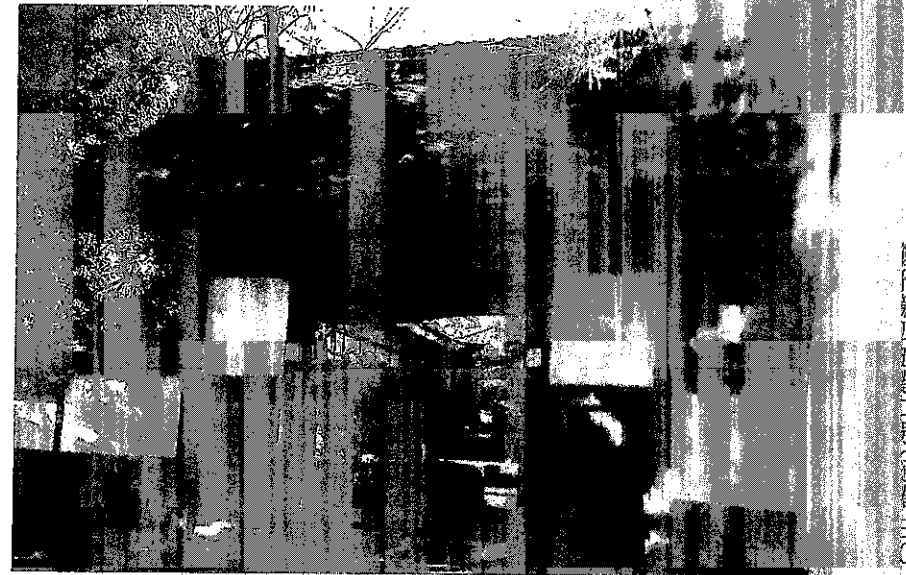


仙臺郷土研究

復刊第45巻第2号 (通巻301号)

創立90周年記念号



松音寺山門 (仙台市若林区)

令和2年(2020)12月

仙 台 郷 土 研 究 会

黒脛巾組の基礎研究

——仙台藩に忍びが存在した可能性の追求——

小野寺 恭 子

一、はじめに

黒脛巾組くろすねいんぐみに関する研究例は多くなく、郷土史家の大林昭雄氏^①、鈴木節夫氏の研究^②や忍者研究者監修の書籍^③の戦国時代の忍者分布図に記述が見られるが、創作ではないかという点で信憑性が不足していた。そのため、調べうる文献において網羅的に忍者に関連する語を洗い出し、信憑性を整理した上で、現存する墓碑の情報を引用しながら、黒脛巾組の存在の可能性を言及したい。

二、関連文献

①忍者関連の語句が記載された文献
別頁に、忍者に関連する主な語の文献別対応抜粋表を付した。文献により動作の呼称は様々だが、忍び込む動作を草、草臥などと呼びその役割をした者がいたことがわかる。さらに一次史料と二次史料の間には一部共通した記述が見ら

れた。

②各文献の性質

成立時期や著者が不明なものもあるが、その内容の信頼性が高い一次史料も含めた。本主張に重要な点であるため一次史料の特徴を解題から確認する。

『政宗記』は伊達家の事績を記録したもので著者は伊達成実、成立は元禄十六年(一七〇三)^④。『伊達天正日記』については、全く手を加えることがなく、伊達氏の公式な日記であり^⑤信憑性を高く評価してよいとの見解が示されている。著者は不明で、元禄十六年(一七〇三)以前の成立。『伊達政宗言行録木村宇右衛門覚書』の著者は小姓の木村宇右衛門、政宗の言葉を書き留め十七回忌までを収録していることから成立は慶安五年(一六五二)頃で、その同時代性が最大の特徴^⑥とされる。よって一次史料中に今回、黒はばきの記述が発見できた^⑦ことは内容の信憑性担保の意味か

忍者に関連する主な語の文献別対応表

| 史料名 | 成立年度 | 時期 | 史料形態 | 内容 | 頁 | キーワード |
|---|--------------------|-----------|------|--|-------------------------|---|
| 伊達政宗言行録 木村宇右衛門覚書 (伊達政宗 言行録、木村宇 右衛門覚書、小 井川百合子編 新人物往來社) | 慶安5年 | 1652 | 一次史料 | 其後こめめふる日、こやの内つれ、なる ま、人々かくれ、傍に片舟小十郎松川 寺介四人くらはき(黒屋巾)のもの三人、 けふのかつせん勝利うたかひなしとおもひ、 くらはき(黒屋巾)のもの五人申つけ、 北山のこしにつけ、 | P.59 P.63 | 黒屋巾 黒屋巾 |
| 伊達天正日記 (伊達天正日記 伊達史料集 (下)第二期 国資料叢書11 株式会社人物 往來社 校注者 小林清治) | 延宝一元禄 1673-1704 | 1673-1704 | 一次史料 | 天正十六年 六月 廿三日 ・ 郭山よりく ひ二ツ太主(金)金七と徳川俊士(徳)か中 うち申、上申候。 天正十六年 六月 廿六日 ・ 大榎へ小野・ かの又、堂御申とやらいにてうち申候。 天正十七年 五月 廿三日 ・ 大町宮内 少辨解解候レ申候。・ 坂田へまち草二罷候、 | P.277 P.278 P.349 | 太主金七 かの又、草 大町宮内、草 |
| 藩翰譜 (藩翰譜第7 上-8上・国 立国会図書館 デジタルコレク ション) | 元禄15年 | 1702 | 二次史料 | 政宗まづ太主金七といふ親子して、秀吉の軍 の糧を備はしむ、北條が亡びんこと違からず と申す、 | P.34 | 太主金七 |
| 政宗記 (政宗記 伊達 史料集(上) 第二期国資料 叢書10 株式 会社人物往來社 校注者 小林 清治) | 元禄16年 | 1703 | 一次史料 | されは奥州の軍言に、堂隠機(くさちようき) 或は堂に入る、或は堂に臥(ふ)す、亦堂を 起す、現堂を撰すと云ふ有。先事御機とは、 我領より他領へ忍びに餘を遣はすこと、是事 御機といへり。視其勢の多少に依て一の堂、 二の堂、三の堂とて、人数次第に引分に依 てに申へり、一の堂には赤立計りを二三四も先 へ遣はし、敵居城の近所夜夜の内より忍ばせ けるを堂を入ると名付。其より能辨所を見合 隠居、草に臥と云ふ。亦して後夜明けなば 内より往來に出ける者を一入取りとも、たと えは強人にも敵地より出かゝりけるを、一 の軍にて討て取ること、是事起といへり。 | P.213 | 草御機、一の草、二 の草、三の草、草の 定義 |
| 伊達秘鑑 (仙合叢書 限 定500部 復刻 版 伊達秘鑑 上 第十七巻 宝文堂出版販売 株式会社) | 天明4年 | 1784 | 二次史料 | 政宗兼て感りアツテ、信夫郡島屋ノ城主安部 賢馬重直ニ命シテ、信(シノビ)ニナレタル 者五十人ヲエテ、扶持ヲ興へ、コレヲ黒屋 巾組ト號ス。植戸戸兵衛世祖隠人ト云者ヲ首 長トシテ、安部尉高直ヲ差引、所々方々へ分 置キ、或ハ商人・山賊・行者等ニ身ヲマギテ 遣々人頭ノ者ニ出來レバ、其便宜ヲ以テ 密事ヲモ隠出シ、其時々コレヲ密通ス。依テ 政宗ニハ疾ク此事ヲ聞ケレトモ外に知ル人 ナラ。仍テ二本松攻已前ヨリ、我目ノ城々ニ ハ人数ノ手當アツテ、マク時二十一月十日、 安部郡ノ内郡山ニコマ碇レタル。大町直内・ 太主金七方ヨリ。早馬ヲ以テ往來シケルハ、 此陣へ押ヨスルナト、強云トモク私匿立 テ、陣中静カナラシ。コレハ政宗ノ密略ヲ以 テ、今様ノ軍一大變ナレバ、彼黒屋巾ノ忍ビ ヲツテ、信夫島屋ノ城主安部尉高直一帯々ニ ヲ統ラシ。柳原戸兵衛・世祖隠人等手下ヲマ ハシ。秘々ノ流言 | P.329 | 信夫郡島屋ノ城主安 部尉高直、黒屋巾、 柳原戸兵衛・世祖隠 人、太主金七(黒屋巾組) |
| 伊達秘鑑 (仙合叢書 限 定500部 復刻 版 伊達秘鑑 上 第十七巻 宝文堂出版販売 株式会社) | 天明4年 | 1784 | 二次史料 | 此陣へ押ヨスルナト、強云トモク私匿立 テ、陣中静カナラシ。コレハ政宗ノ密略ヲ以 テ、今様ノ軍一大變ナレバ、彼黒屋巾ノ忍ビ ヲツテ、信夫島屋ノ城主安部尉高直一帯々ニ ヲ統ラシ。柳原戸兵衛・世祖隠人等手下ヲマ ハシ。秘々ノ流言 | P.345 | 黒屋巾、信夫島屋ノ 城主安部尉高直、柳原 戸兵衛、世祖隠人 |
| 会津密名記 (会津密名記 仙合叢書第五巻 著作者：仙 合叢書刊行会) | 寛永7年 | 1730 | 二次史料 | 會津へ御人城候後、家中四三老出入の最中 には、政宗より太主金助と云侍を、黒川の内 大町印の下に風呂屋あり、彼士を忍ばせ世 日々奉名の家の借、双方評論品々を嘗て政 宗ハ羽置すと云云。 | P.229 | 太主金助 |
| 老人伝聞記 (老人伝聞記 仙合叢書 第六 巻 著作者：仙 合叢書刊行会) | 不明 | 不明 | 二次史料 | 一 貞山様御代に。黒屋巾組と申者被二百 仕一族。是は其所々の百姓共の内。力量も者 レ之打物も幾候候の者すぐり立。五十人・ 三十人一組に致候て。所々の御案内申上。又 は隠候共忍人候を提出候か。或いは兵機隠米 御陣具竹木等の事状。是記申候今時の御儀の 様なる者に候。一様は黒の皮御袴をはき申候。 其土地の古人の武邊有レ之岩を祖頭と被二相 違一候。南にては河野御馬。北にては遠水澤 彦兵衛。佐沼にては遠野御右衛門。石巻にては佐々 木左近。本吉南方に横山御人。同北方より氣 仙遊は。氣仙遊左近。其外名不二三傳一候。 | P.100 | 黒屋巾組、黒の皮御 袴、河野御馬、清水 深主兵衛、遠物右 衛門、佐々木左近、 横山御人、氣仙遊左 近 |

ら大きな意義がある。

一方、『伊達秘鑑』・『老人伝聞記』・『会津密名記』・『藩翰譜』の成立はそれぞれ江戸期もしくは不明で物語性がある二次資料とされるが、『伊達秘鑑中』に柳原戸兵衛が黒屋巾組の首長として記載されている①部分に注目したい。

三、西多賀地域に伝わる伝承

「伊達政宗・忠宗の二代にわたり仕えた、鹿又戸兵衛は政宗が福島県の郡山付近で戦った(人取橋の戦いなど)時に「黒はばき組」の一人として活躍した」②とされるほか、西多賀今昔かるたには「黒屋巾 つけて活躍 鹿又戸兵衛」として東原神社のお社と朱の鳥居の画像が採録されており③、戸兵衛大明神として「西多賀四丁目の高台にある。政宗公より三百石を賜り、二代藩主忠宗公に鉤取に知行地を賜った鹿又戸兵衛を祭る。」と西多賀歴史マップ④に写真付きで紹介されている。

また、平成二十九年(二〇一七)まで存在した神社については、「子孫である鹿又武三郎(仙合市長を二期勤めた)が、昭和六年(一九三二)に先祖の戸兵衛の徳をしのんで造営した」⑤もので、「西多賀四丁目の高台に、戸兵衛神社があり、少し離れた所に戸兵衛の墓がある」⑥など、地域の文化財として認知されていたことがわかった。ここで得られた情報から、より資料的な裏付けを調査した。

黒屋巾組の基礎研究

四、鹿又戸兵衛について

①人物について

「鹿又戸兵衛・復讐。小字新平後ち戸兵衛と改む、老いて武文軒と號す其の父九郎兵衛、右近及び右衛將監なる者に殺さる、や戸兵衛(中略)潜匿して浪士となり、姓を柳原と改め、親戚なる伊豫守和島侯伊達秀宗君の老臣櫻田玄蕃に倚食す(中略)政宗公人取橋合戦の時間謀長となり、戦功あり、数年の後ち命を奉じて本姓鹿股氏に復す」⑦とあるため、鹿又戸兵衛と先に見た黒屋巾組の首長、柳原戸兵衛は同一人物と考えて間違いない。

②鹿又家について
鹿又家については、後述の通りであり、墓碑の内容との関連性が認められる。

【墓碑1】
(表面)
播磨守十六代之孫 鹿股戸兵衛之墓
(裏面)
考妣嘗構宅地於名取郡鉤取邑居之及卒葬于其所爾後頒與地于□
宗家鹿又十郎右衛門墳塋終入其境安永六年告旨除塋域方九尺

地賣□□

□某世稱(幸)(改)焉塋上樹杉一株為表識二百年于此杉皆枯因茲代

以□且今合勒一碑建詣兩塋之間以從便垂訓後裔餘詳于奈女志莊之

碑云

于時嘉永二己酉年秋九月考九世孫藤親庸謹建

(側面)

慶安三年九月十八日

勇兵道強禪定門

延寶八年九月三日

貫宗妙陽信女

鹿又戸兵衛側室

【墓碑2】

鹿又八郎兵衛親父

貞享五年

○爲 方若意水信士菩提

戊辰四月廿日

行年八十一歳

【三】 仙台藩家臣に、藤原姓で、鹿股八郎兵衛を祖とする鹿股家がある。(後略)⑩。「出自 伊達譜代 録・扶持高二〇貫六四九文二歩一人 召抱藩主 晴宗以前格式 虎の

五、考察

黒脛巾組の呼称がほとんど史料に残されていないことが疑問であったが、政宗の目が届く時代における配慮があったものだろう。由緒の引用はないものの、「昭和十二年八月盛夏、仙台市木下救護舎北窓下に於いて信夫郡鳥屋城主安部対馬守重定十四代の孫安部定禰記」⑪との一文を発見した。黒脛巾組を組織した人物であると『伊達秘鑑』に記述される鳥屋ノ城主安部対馬重定の孫であることが理由はわからないが強調されている。黒脛巾組は『伊達秘鑑』の記述のとおり実在し、先祖への畏敬の念とともに活躍の功績として後々記述された側面があったのではないだろうか。

今回の調査は黒脛巾組が存在した可能性の追求においての一步であった。情報の補完を今後の課題としたい。

最後になったが、この小文を作成するに当たり、次の個人と機関からご協力をいただいた。記して感謝申し上げる(敬称略・順不同)。

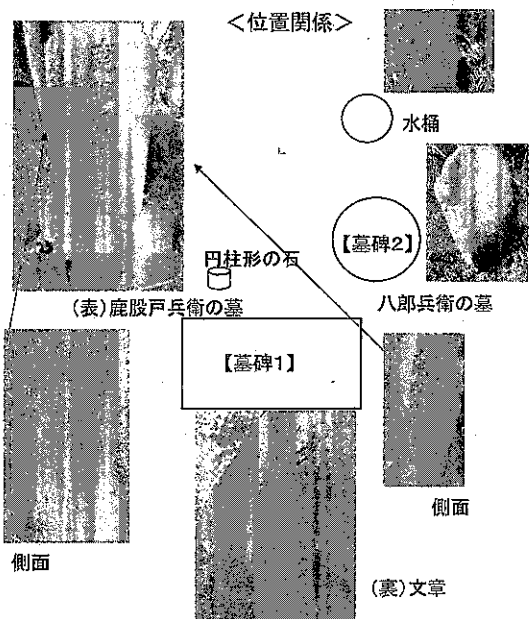
後藤伊佐夫、清川繁人、渡辺拓、西多賀市民センター、仙台市博物館学芸企画室、宮城県図書館資料奉仕部資料情報班、福島県立図書館地域資料チーム

黒脛巾組の基礎研究

問 延年書上(左近太郎親助子孫播磨〔後略〕)⑩。

③墓碑 墓碑を訪れたところ、次のような位置関係で墓石があり、上記のように刻まれていた。

残念ながら鹿股戸兵衛の生年は不明だが、慶安三年(一六五〇)に亡くなったことがわかる。



【註】

- ①大林昭雄「忍者 黒脛巾組について」『伊達忍帖控』ギョラリ―大林、二二―一四頁、平成一八年
- ②鈴木節夫「黒脛巾・その他」『仙臺郷土研究』四巻八号、一―十頁、昭和九年
- ③山田雄司監修「戦国時代の忍者分布図」『EJG』英語訳つき忍者入門「主婦の友社、三六―三九頁、平成三十一年
- ④小林清治「伊達史料集(上)第二期戦国資料叢書」十「株式会社人物往来社、一四五頁、昭和四十二年
- ⑤小林清治「伊達史料集(下)第二期戦国資料叢書」十一「株式会社人物往来社、二一七頁、昭和四十二年
- ⑥小井川百合子「伊達政宗言行録 木村宇右衛門覚書」新人物往来社、二八頁、平成九年
- ⑦小井川百合子「伊達政宗言行録 木村宇右衛門覚書」新人物往来社、五九頁、六三頁、平成九年
- ⑧鈴木武夫「仙台叢書 限定五百部復刻版 伊達秘鑑(上)第十七巻」宝文堂出版販売株式会社、三二―九頁、昭和四十七年
- ⑨山田・鉤取まこと物語製作委員会編「戸兵衛明神(東原神社)」『山田・鉤取まこと物語』二八頁、平成二十八年
- ⑩仙台市市議会会議録 平成二九年第四回定例会第五日目九番(渡辺拓) 文書閲覧
- ⑪西多賀市民センター「西多賀歴史マップ」平成二十三年度
- ⑫西多賀歴史探訪会編「鹿又戸兵衛について」『西多賀探訪記第四号』

三十七〜三十八頁、平成七年

⑬ 菊田定郷「カノマタトヘエ」「鹿又戸兵衛」「仙台人名大辞書」
二六六頁、昭和五十六年

⑭ 角川書店「第二部 姓氏編」―「鹿又・鹿股 かのまた」「角川日本
姓氏歴史人物大辞典 四」五八四頁、平成六年

⑮ 坂田啓「鹿股」「私本仙台藩土事典」二八七〜二八八頁、平成十三
年

⑯ 歴史春秋社「伊達、信達二郡に伊達氏十六代の史跡を求めて」「郷
土研究岩磐史談第一巻」三七八〜三八二頁、昭和四十七年

「仙台市史」 好評販売中!



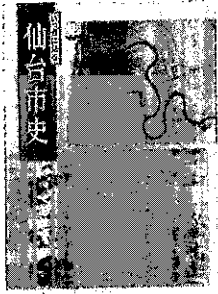
市制100周年記念事業として編さんが行われた仙台市史は、原始から平成元年に仙台が政
令指定都市となるまでの事象をあつかい、最新の研究成果を盛り込んだ内容になっています。
「通史編」9巻のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」13巻、特定のテー
マを詳しく掘り下げた「特別編」9巻に、「年表・索引」1巻を加え、全32巻が刊行されています。

- ◆通史編 原始、古代中世、近世1〜3、近代1・2、現代1・2
- ◆資料編 古代中世、近世1〜3、近代現代1〜4、仙台藩の文学芸能、伊達政宗文書2〜4
- ◆特別編 自然、美術工芸、市民生活、板碑、民俗、城館、慶長遣欧使節、地域誌
- ◆年表・索引

※「資料編 伊達政宗文書1」「特別編 考古資料」は完売しました。
 ※価格(税別): 通史編2,858円 / 資料編3,810円
 特別編5,714円(『板碑』のみ4,762円)
 年表・索引2,000円

お求めは : 宮城県内主要書店・仙台市博物館2階ミュージアムショップ
 郵送希望の方:(株)宮城県教科書供給所
 〒983-0034 仙台市宮城野区扇町1-6-3
 TEL: 022-235-7181 FAX: 022-235-7183

「いっせに見る仙台市史」価格: 550円(税込)
 仙台市史全32巻から厳選した写真と図版を中心に、原始から政令
 指定都市へといたる仙台の歴史を概観できる1冊です。
 仙台市博物館2階ミュージアムショップにて販売中!



A4判、16ページ、オールカラー

「仙台市史」活用資料集の御案内

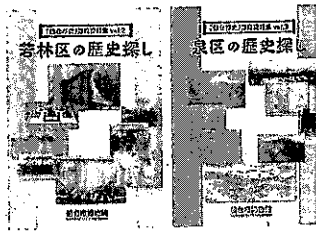
「vol.8 青葉区の歴史探し―東部―」価格: 600円(税込)
 「仙台市史」のなかから旧仙台北城下を中心とした青葉区の東部に関する
 事象を取り上げ、図版や画像資料も豊富に掲載しています。青葉区東部の
 歴史をコンパクトに読めるのはもちろん、さらに深く地域を知るためのヒ
 ントが満載です。
 ※vol.4〜6宮城野区・太白区(西部、東部)の歴史探しについては完売
 しました。
 ※「vol.7 青葉区の歴史探し―西部―」は残部僅少です。



A4判、24ページ、オールカラー

好評につき増刷しました

vol.2 若林区の歴史探し
 vol.3 泉区の歴史探し
 ※A4判、16ページ、オールカラー
 価格: 600円(税込)



仙台市博物館2階ミュージアムショップにて販売中!
 各種お問い合わせ先: 仙台市博物館情報資料センター
 TEL: 022-225-3074

仙台方言語彙(その3)

- かつける (かこつける・人のせいにする)
- かななげつちよ (かなへび)
- かばねやみ (なまけもの)
- かぶづく (かみつく)
- かまう (からかう)
- がめる (盗み取る・ちよるまかす)
- がらつと (全部)
- かんます (引つ掻き回す)
- きかねえ (名; 乱暴者・腕白者、悪戯鬼) (形; 不従順な)
- きつつかし (挿し木)
- きつともす (満腹になる)
- きつぱ (切れ目)
- きょうび (今日この頃)
- くさもぢ (岡場所・宿場の私娼)
- ごしつばらやげる (腹立たしい)
- ごで (御亭主) ↓ おがた (奥様)
- このげ (まゆげ)
- せいごたる (田舎者)
- さぎつべ・さぎつべた (先端)
- さぐい (気さくに)
- さぐり切る (畑の畝を作る)